

# 地理歴史

## 1 学習指導の工夫・改善

### (1) 各教科等における探究的な学び

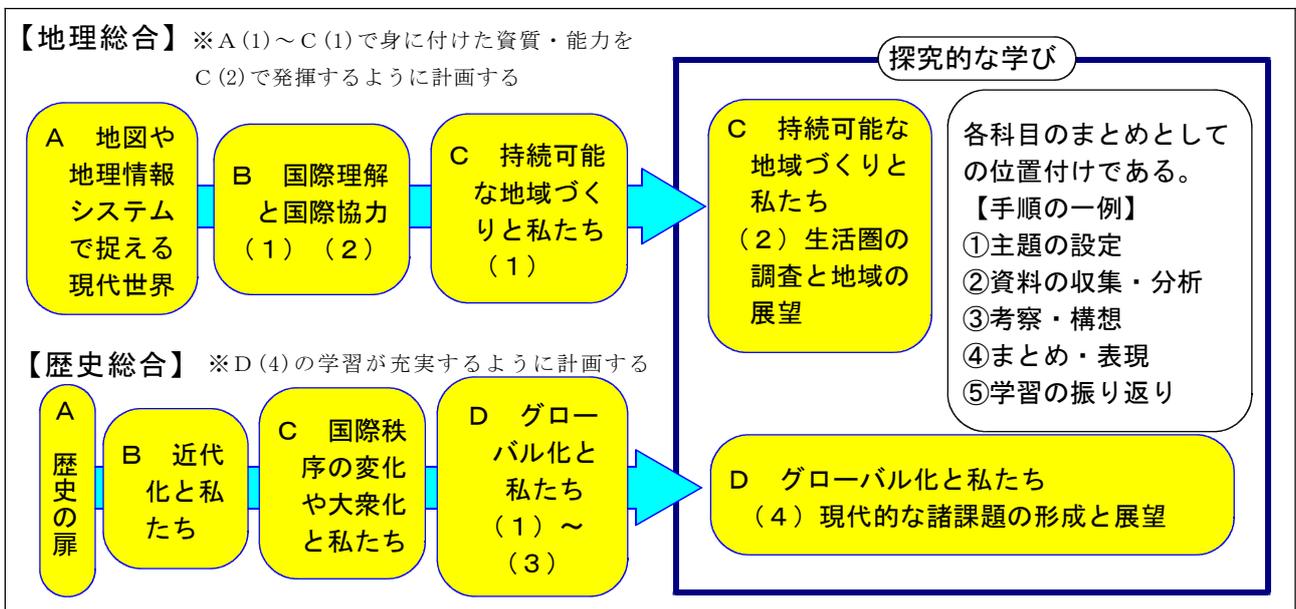
新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

地理歴史科においては、「探究」の名称が付されていない科目として「地理総合」と「歴史総合」がある。

「地理総合」においては、中項目「C(2) 生活圏の調査と地域の展望」において、「空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」とあるように、「地理総合」のまとめの項目として、「地理探究」での学習と結びつく位置付けとなっている。

また、「歴史総合」においては、中項目「D(4) 現代的な諸課題の形成と展望」において、「内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習などを基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」とある。この中項目は「歴史総合」のまとめとして位置付けられており、「Bの(4)及びCの(4)の内容を更に深めたり、Bの(4)及びCの(4)とは異なる観点を取り上げたりして、この科目の学習を振り返り適切な主題を設定すること。」とあるように、これまでの学習内容を深化する位置付けとなっている。



## (2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

地理総合では、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする学習活動に取り組むこととしている。カリキュラム・マネジメントの視点から、地理学習を通して育成される見方や考え方を、年間指導計画の中で総合的な探究の時間や、他の教科等との関連を明記することで、より組織的・計画的な教育の質的向上につなげることができる。

次の表は、「地理総合」の年間指導計画の例である。

| 教科名                                | 地理歴史  | 科目名  | 地理総合   |                                |
|------------------------------------|---|--|--|--------------------------------|
| 科目の目標                              | 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。 |  |  |                                |
| 履修学年                               | 第1学年  | 単位数  | 2単位  |                                |
| 月                                  | 単元  | 学習内容   | 評価規準等  | 関連                             |
| 4<br>5                             | A 地図や地理情報システムで捉える現代世界(想定：7時間)<br>(1) 地図や地理情報システムと現代世界   | ・位置や分布などに関わる視点に着目して、現代世界の地域構成とともに地図やGISの活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、…(後略)   | 【知】現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどを理解している。<br>【知】日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性について理解している。<br>【技】…(後略)  | 【総探】<br>情報を収集・整理・発信する資質・能力     |
| 6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12 | B 国際理解と国際協力(想定：37時間)<br>(1) 生活文化の多様性と国際理解<br>(2) 地球的課題と国際協力   | ・場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して、世界の人々の生活文化を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解する。(後略)<br>・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、…(後略)   | 【知】世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなど理解している。<br>【知】世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。(後略)   | 【政治経済】<br>「第1編第5章現代の国際政治」      |
| 1<br>2<br>3                        | C 持続可能な地域づくりと私たち(想定：12時間)<br>(1) 自然環境と防災<br><br>C 持続可能な地域づくりと私たち(想定：14時間)<br>(2) 生活圏の調査と地域の展望                     | ・人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して、地域性を踏まえた防災を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、自然環境の特色と防災との関わりや、地域性を踏まえた防災の重要性などを理解し、そのために必要な地理的技能を身に付ける。<br><br>・学習内容については、2(1)ウ～オを参照 | 【知】生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。<br>【思】地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、…(後略)<br><br>・指導・評価等の留意点については、2(1)ウ～オを参照 | 【公共】<br>「C持続可能な社会づくりの主体となる私たち」 |

歴史総合では、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする学習活動に取り組むこととしている。総合的な探究の時間の地域の歴史や文化を主題とした学習活動との関連について、歴史領域科目の指導計画にどう関連付け、活用するかについて、カリキュラム・マネジメントの視点から幅広い配慮や工夫をすることも大切である。

次の表は、「歴史総合」の年間指導計画の例である。

| 教科名                     | 地理歴史   | 科目名  | 歴史総合  |  |
|-------------------------|--|--|---|--|
| 科目の目標                   | 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。        |  |   |  |
| 履修学年                    | 第1学年   | 単位数  | 2単位   |  |
| 月                       | 単元   | 学習内容   | 評価規準等   | 関連   |
| 4                       | A 歴史の扉<br>(想定：4時間)<br>(1) 歴史と私たち<br>(2) 歴史の特質と資料   | ・私たちに関わる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解するため、…歴史との関連性について考察し表現する。   | 【知】 私たちの生活などに見られる諸事象が…歴史が資料に基づいて叙述されていることを理解している。<br>【思】 …資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。  | 【総探】<br>原因や根拠を見付ける資質・能力                                  |
| 5<br>6                  | B 近代化と私たち<br>(想定：24時間)<br>(1) 近代化への問い<br>(2) 結び付く世界と日本の開国<br>(3) 国民国家と明治維新<br>(4) 近代化と現代的な諸課題                            | ・交易と交通、移民などに関する諸資料から情報を読み取ったりまとめたりし、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。<br>(後略)   | 【思】 資料を活用する…疑問を問いで表現できるようにする。(後略)<br>【思】 アジア諸国と他国の地域や動向を比較したり…多面的・多角的に考察・表現している。(後略)<br>【態】 近代化に伴う生活や社会の変容について…見通しを持って今後の学習における課題を追及しようとしている。                                   | 【総探】<br>自ら問いを見だし探究する資質・能力                                |
| 7<br>8<br>9<br>10<br>11 | C 国際秩序の変化や大衆化と私たち<br>(想定：23時間)<br>(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い<br>(2) 第一次世界大戦と大衆社会<br>(3) 経済危機と第二次世界大戦<br>(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 | ・国際関係の緊密化、植民地の独立などに関する諸資料から…私たちの生活や社会の在り方が、国際秩序の変化や大衆化に伴い変化したことについて考察し、問いを表現する。<br>・第一次世界大戦の性格と参加、国際協調体制などを考察・表現して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。<br>(後略) | 【知】 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制や大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。(後略)<br>【思】 日本とその他の国や地域の動向を比較したり…多面的・多角的に考察・表現している。(後略)<br>【態】 国際秩序の変化や人々の生活や社会の在り方が大衆化に伴い変化したことについて…見通しを持って今後の学習における課題を追及している。 | 【総探】<br>多面的・多角的に見る資質・能力                                  |
| 12<br>1<br>2<br>3       | D グローバル化と私たち<br>(想定：19時間)<br>(1) グローバル化への問い<br>(2) 冷戦と世界経済<br>(3) 世界秩序の変容と日本<br>(4) 現代的な諸課題の形成と展望                        | ・(前略)<br>・これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒自らが主題を設定し、主題について多面的・多角的に考察・構想し、現代的な諸課題を理解する。  | 【知】 …現代的な諸課題を理解している。<br>【思】 設定した主題について、現代的な諸課題を展望し…考察している。<br>【態】 現代的な諸課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及している。  | 【総探】<br>自ら問いを見だし探究する資質・能力<br><br>【総探】<br>多面的・多角的に見る資質・能力 |

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

### (1) 地理総合「C 持続可能な地域づくりと私たち (2) 生活圏の調査と地域の展望」の計画例

#### ア 単元の目標

- 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。
- 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、「よりよい地域の在り方」などの主題を設定し、「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」などを、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- 生活圏の地理的な課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。

#### イ 単元の評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏の調査を通して、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目し、「よりよい地域の在り方」などの主題を基に、「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」などを、多面的・多角的に考察・構想し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏の地理的な課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。</li> </ul> |

#### ウ 単元の指導と評価の計画 (14時間)

※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価 (以下同様)

| 時間            | ねらい、言語活動等  | 知 | 思 | 態 |
|---------------|--|---|---|---|
| 第1次<br>(4時間扱) | <p>○ これまでの学習活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A(1)～C(2)までの各単元の学習内容や小・中学校社会科の「地域調査」の経験を振り返る。</li> <li>生活圏の人口推移、人口ピラミッド、産業別人口割合の推移、観光収入の推移などの統計を基に、生活圏にはどのような魅力や課題があるのかを考え、探究する主題である「よりよい地域の在り方」について取り組むことに見通しをもつ。</li> </ul> <p><b>【学習課題：単元全体に関わる問い】「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」</b></p> <p><b>【問い】地域にはどのような魅力や課題があるだろうか。</b></p> <p>○ 生活圏に見られる課題を自ら設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実生活で感じていることや、これまでの学習と関連付けたことを基に、地域の魅力や課題についてまとめる。</li> <li>単元全体に関わる問いに対する仮説を設定する。</li> </ul> <p><b>【問い】地域の課題や魅力の根拠をもたせるには、どのような情報が必要となるのだろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RESASや地理院地図など地理情報が得られる方法を振り返る。</li> <li>共通の生活圏に住む生徒のグループで情報収集を行い、KJ法などの手法を用いて及び情報の整理を行う。</li> <li>単元全体に関わる問いに対する仮説を修正する。</li> </ul> |   |   |   |

課題の設定

<「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫>  
(例) 単元を通じた、地域調査から発表までの過程で、Google Slides等を適宜活用して、情報を収集し、分析する活動を通して、設定した仮説がどのように変容していくのを見とれるよう工夫する。

<「総探」との関連>  
(例) 情報を整理する手法として総合的な探究の時間で取り組まれたブレインストーミングや、Jamboard等を活用したKJ法などが考えられる。  
(「考えるための技法」工、才参照)

|                                    |   |   |
|------------------------------------|---|---|
| 課題の設定                              | <p>【問い】地域にはどのような魅力や課題があるだろうか。<br/>【探究テーマを設定しよう】</p>   |   |
|                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で獲得した情報収集及び整理の手法を活用して、客観的データを基にした地域の魅力や課題をまとめる。</li> <li>気になる(特徴的な)魅力や課題を発表し、単元全体に関わる問いに対する探究テーマを設定する。</li> </ul> <p>※ 本事例では、「よりよい地域の在り方」という探究する主題を基に、「高齢者が住みやすい街にするにはどうすればよいか。」という探究テーマ(問い)を設定したグループを事例として取り上げることとする。</p> | ●   |
| 第2次<br>(7時間扱)                      | <p>【問い】どのような仮説が考えられるだろうか。また、仮説を検証するためにはどのような資料が必要だろうか。</p>  |   |
| 課題の探究                              | <p>【Step1 事前調査(デスクワーク)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究テーマ「高齢者が住みやすい街にするにはどうすればよいか」に関する客観的な周辺情報を収集し、探究テーマに関わる諸事象を大観する。</li> </ul> <p>収集する情報の例：図書室にある書籍、新聞やインターネット、あるいは自治体史(県史や市町村史)などが考えられる。</p>  | ●   |
|                                    | <p>【Step2 仮説の設定と調査計画の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前調査(デスクワーク)で収集した情報を整理して、探究テーマの仮説を立てる。</li> <li>仮説を検証するための調査項目や調査対象、調査方法を検討し、現地調査(フィールドワーク)の計画を立てる。</li> </ul> <p>仮説の例：高齢者が住みやすい街にするには、介護施設等を増やすだけでなく、あらゆる施設・設備の設計を高齢者に配慮されたものにしていく必要がある。</p>   | ○   |
|                                    | <p>【Step3 現地調査(フィールドワーク)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査計画に基づき、現地調査を実施する。</li> </ul> <p>現地調査活動の例：役所での聞き取り調査を実施する場合、生徒自身が仮説に関連した資料等を収集し、分析した上で、具体的に何を聞き取り、どのような資料が必要かをあらかじめ検討して現地調査に当たることなどが考えられる。</p>  | ●   |
|                                    | <p>【Step4 整理、分析(仮説の検証)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査で収集した情報を整理し、仮説の妥当性を検証する。</li> </ul>  | ●   |
|                                    | <p>【Step5 リフレクション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査全体を通したリフレクションを行う。</li> </ul>  | ●   |
| 第3次<br>(3時間扱)                      | <p>【学習課題；単元全体に関わる問い】「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」</p>  | <p>発表前にリフレクションを行うことで、生徒が自分自身の活動を振り返り、発表する際の流れの整理につなげることが期待できる。</p>                                |
| 発表                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体に関わる問い「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」について、自分の考えを【ワークシート】に記入する。</li> <li>学習履歴のモニタリングを行い、第一次で立てた仮説が、どのように変化していったのかを分析し、【ワークシート】に記入する。</li> <li>新たな問いと仮説を表現する。</li> </ul>  | <p>&lt;「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫&gt;<br/>第1次で設定した単元全体に関わる問いの仮説を、第2次の調査活動を基に、再設定する活動を通して、その変容を見取る。</p> |
| <p>【問い】発表資料をどのようにまとめればよいのだろうか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「よりよい地域の在り方」について考察したことを、グラフや主題図などを使ってグループごとに発表し、質疑応答を行う。</li> <li>他のグループの発表を聞き、疑問に思ったことや自分のグループの調査の参考になることをワークシートに記入する。</li> </ul>   |   |

エ 学習指導案(11時間目/14時間中)

(ア) 本時の目標

自ら立てた仮説の変容について分析し、分析結果を表現する活動を通して、探究する主題である「よりよい地域の在り方」について、生活圏で見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(イ) 本時の展開

| 過程         | 生徒の学習活動  | 指導上の留意点  |
|------------|--|--|
| 導入<br>5分   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時まで完了している調査結果の整理・分析・考察状況を共有・確認する。</li> </ul> <p>北海道では冬季期間の場合、十分な現地調査を実施することができない可能性がある。そのため、調査内容によっては、地理院地図やウェブの活用、電話での聞き取り等の活動も想定される。</p>   |   |
| 展開<br>25分  | <p><b>【本時の問い】「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査活動のリフレクション ※Google Slidesを活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元全体に関わる問い「地域をより一層住みよい街にするには、どうすればよいのだろうか」について、これまでの調査活動を基に、自分の考えを論述する。</li> <li>・ (第一次の) 1時間目、3時間目に論述した単元全体に関わる問いの仮説と、現在の自分の考えとを比較し、どのような変容が見られ、なぜそのような変容が生じたのかを論述する。</li> <li>・ グループ内で自分の考えを発表し、意見交換を行う。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「総合的な探究の時間」との関連性を強調する。</li> </ul> <p>生徒のGoogle Slidesを教員が共有することで、学習活動の変容の把握や学習支援等にも活用できる。また、生徒自身も自分の学習データを適宜振り返ることにより、考察を深めることができる。</p> |
| まとめ<br>20分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな仮説（問い）の表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの調査活動と意見交換を踏まえ、新たな仮説（問い）と、仮説の設定理由を論述する。</li> <li>・ 「よりよい地域社会を実現するために」という論題で、ディスカッションを行う。</li> </ul> </li> </ul>   | <p>■ 評価の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C評価の生徒への手立てとして、別視点のデータの紹介、対話により新たな問いの発見を促すことなどが考えられる。</li> </ul>  |

オ 評価資料等

(ア) 調査活動のリフレクション、新たな仮説（問い）の表現で使用するワークシート

リフレクションシート（第1次）

(1) 地域には、どのような課題や魅力があるだろうか。

(2) 地域の課題や魅力の根拠を持たせるには、  
どのような情報が必要となるだろうか。

(3) 地域をより一層住みよい街にするには、  
どうすればよいだろうか。

リフレクションシート（第2次） ※ 本時に活用

(1) これまでの調査結果を踏まえ、自分の仮説はどのように  
変化したか。また、それはなぜ変化したのだろうか。

(2) これまでの調査結果や他者の意見を踏まえ、  
新たな仮説（問い）を表現してみよう。

リフレクションシート（第1次）については、生徒が経験則等から記述することから、客観的なデータを求めずに記入させる。  
第1次から第2次の学習活動を通して、Google Slidesやワークシート等を活用して、評価者だけでなく、生徒自身も変容が見取れる資料を作成する。

(イ) 具体的な評価例

（「自分の仮説はどのように変化したか。また、それはなぜ変化したのだろうか。」について）

例1 「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

最初は高齢者の割合が高いことから、高齢者の住みよい街にするという観点で探究を想定したが、調査をする中で人口増加が街の活性化につながると考え、街の機能を充実し、多様な人が住みやすい街づくりをすることが大切と考えた。

例2 「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例

高齢者の割合が高いことから、高齢者がより充実した生活ができるような街づくりを推進していく必要がある。

例1、2ともに、第1次のリフレクションシートでは、高齢者の割合が高いことを課題としていた。例1では、学習活動を通して気付いたことを基に記述がされているため、おおむね満足できる状況と見取ることができる。それに対して、例2は、学習活動を通して変容が見られず、また具体性に欠ける記述となっているため、努力を要すると見取ることができる。例2の生徒については、例えば、単元の途中で教師が見取った「学習改善につなげる評価」を再度伝えるといった手立てを取ることで、おおむね満足できる状況になる記述ができるようにさせたい。

(2) 歴史総合「B 近代化と私たち (2) 結び付く世界と日本の開国」の計画例

ア 単元の目標

- ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、工業化と世界市場の形成を理解する。
- ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・結び付く世界と日本の開国に関わる諸事象について見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|---|--|
| 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、工業化と世界市場の形成を理解している。 | 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに注目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 結び付く世界と日本の開国に関わる諸事象について見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとしている。 |

ウ 単元の指導と評価の計画 (3時間)

※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価 (以下同様)

| ねらい、学習活動等     |   | 評価の観点 |   |   |   |
|---------------|---|-------|---|---|---|
|               |   | 知     | 思 | 態 |   |
| 第1次<br>(1時間扱) | <p><b>主題 「産業革命が世界各地に与えた影響」</b><br/> <b>【小単元3全体に関わる問い】 「産業革命は、世界各地の社会や経済をどのように変えたのだろうか。また、アジアと欧米との関係をどのように変えたのだろうか。」</b></p> <p>・小単元3全体に関わる問いについて、中学校までの学習やこれまでの学習を踏まえて表現した解について吟味し、追究したい内容について見通しをもって学習に取り組む。</p> <p><b>【問い】「産業革命は、どのような点で「転換点」といえるのか。」</b></p> <p>・史料、絵画、グラフ等の諸資料を活用して産業革命により生じた諸現象を読み取り、産業革命がもたらした影響について、他者と共有する。</p> |       | ● |   | <p>&lt;ICTの活用&gt;<br/>産業革命について、生徒がICT端末等を活用して情報収集する。</p> <p>&lt;「総探」との関連&gt;<br/>「課題の設定」「情報の収集」と関連を持たせる。</p> <p>&lt;「思・判・表」の評価の工夫&gt;<br/>中国の開港と日本の開国に関する資料から、欧米の進出の背景やその影響を読み取り、表現する。<br/>また、中国の開港と日本の開国の共通点や相違点について、欧米諸国との関係性を踏まえて考察し、表現する。</p> |
|               | <p><b>【問い】「欧米は、なぜ東アジアに進出したのだろうか。また、東アジアと欧米の関係をどのように変えたのだろうか。」</b></p> <p>・中国の開港と日本の開国の共通点と相違点を諸資料から読み取り、欧米の進出への対応について、当時の中国と日本が置かれた状況を踏まえて考察し、その結果を表現する。</p> <p><b>【まとめ】：小単元全体に関わる問いについて、単元での学習を振り返る</b></p> <p>・各次の学習内容を踏まえ、「小単元3全体に関わる問い」について、諸資料を活用して考察し、その結果を表現する。</p>  |       |   | ○ | <p>&lt;「主」の評価の工夫&gt;<br/>単元シートを活用し、学習を通して自分の考えがどのように変容していったのかを見取ることができるようにする。</p>   |

エ 学習指導案（2時間目／3時間中）

(ア) 本時の目標

- ・中国の開港と日本の開国について、史資料やグラフ等の資料から、共通点と相違点を読み取り、その結果を表現することができる。
- ・共通点と相違点が生じた理由について、当時の東アジアとその他の国や地域の動向とを関連付けて考察し、その結果を表現することができる。

(イ) 本時の展開

|     | 生徒の学習活動  | 指導上の留意点  |
|-----|--|--|
| 導入  | <p><b>【本時の問い】「欧米は、なぜ東アジアに進出しようとしたのか。また、東アジアと欧米の関係をどのように変えたのだろうか。」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目(ア)の学習内容を踏まえ、問いに対する自分の予想（考察）をワークシートに記入する。</li> </ul>  | <p>■評価の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を適切に読み取り、比較したり、相互に関連付けたりしながら考察し、表現できているかという思考・判断・表現の観点で評価する。</li> </ul>   |
| 展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の開国、日本の開港の経緯に関する知識を確認する。</li> <li>・グループで、イギリスとアメリカの進出の意図を、諸資料から読み取り表現する。</li> <li>・グループで、中国の開港、日本の開国後にどのような変化が生じたのか、共通点と相違点を諸資料から読み取り表現する。</li> <li>・本時の問いに対する回答を、諸資料を踏まえて考察し、表現する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の確認は、解説が長くないよう留意する。</li> <li>・欧米諸国の進出と産業革命の関連に気付くようにする。</li> <li>・共通点、相違点を読み取るだけではなく、なぜそのような共通点や相違点が生じたのかについても考察するよう促す。</li> </ul> |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を振り返り、授業の最初に表現した考察と、授業の最後に表現した考察の変化について整理する。</li> <li>・ICTを活用して、考察したことをグループで共有する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・共有することで、他者の視点を取り入れ、思考の幅を広げるよう促す。</li> </ul>  |

ワークシートは前時に配付しておき、教科書を参考に、各自家庭で作業を終えるようにする。

全体共有の際は、ICTを活用して、各グループの表現した考察や意見を提示することで時間を効果的に使用できるようにする。

オ 評価資料

(ア) [ワークシート](#)

ワークシート全体を見る場合は、ここをクリック

- ・読み取るワークシートの一部

2 なぜ、欧米諸国は東アジアに進出したのだろうか

|   |  |
|---|--|
| <p>中国で産出する茶、陶磁器、絹などは西洋各国の必需品であるから、広州での貿易をゆるし、必需品を与えて、中国の恩恵を施し、潤わせているだけである。この慣例に反して英国がより多くの貿易を請願することは、中国のやり方を乱すものである。</p> <p>（「清高宗実録」より作成）</p> | <p>毎年、多くのアメリカの船がカリフォルニアから清へ行き、多くのアメリカ人が日本沿岸で捕鯨に携わっている。アメリカ船が日本沿岸で難破した場合、乗組員と積み荷を大切に保護していただきたい。日本には石炭や食糧が豊富にあると聞く。我がアメリカの船舶が日本に寄港し、石炭・食糧・水を補給することを許していただきたい。（「米国大統領親書」より作成）</p> |
|---|--|

(イ) 評価規準

この単元を通して理解させたいのは、産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基にした「工業化と世界市場の形成」である。本時では、中国の開港と日本の開国の背景や影響に関する資料を適切に読み取り、共通点と相違点を見出すとともに、なぜそのような共通点と相違点が生じたのかを、当時の東アジアとその他の国や地域の動向とを関連付けて、考察し、表現していることを評価する。課題の説明について、次のような評価基準を設定した。

|          | A  | B   | C  |
|----------|--|---|--|
| 思考・判断・表現 | 欧米の東アジア進出と中国や日本の対応について、諸資料から読み取った共通点と相違点をもとに、東アジアと欧米諸国との関係性を多面的・多角的に考察した上で、その対応について根拠を示して評価し、表現している。 | 欧米の東アジア進出と中国や日本の対応について、諸資料から読み取った共通点と相違点をもとに、東アジアと欧米諸国との関係性を考察し、表現している。 | 欧米の東アジア進出と中国や日本の対応について、諸資料からの読み取りが浅く、東アジアと欧米諸国との関係性の考察が不十分である。 |

(ウ) 具体的な評価例

例1 「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

産業革命を達成した欧米諸国は、東アジアでの自由貿易を求めて進出した。イギリスとの戦争に敗れた中国は、賠償金や領土の割譲を認めて開港し、日本は戦争をすることなく、アメリカとの交渉により開国した。中国、日本ともに、輸出品は原料などが主で、輸入品は工業製品であり、産業革命を達成した欧米諸国の自由貿易圏に巻き込まれたと考えられる。

例2 「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例

イギリスは、中国がアヘンの輸出を禁止したのでアヘン戦争を起こし、開港させた。アメリカは、避難民保護や石炭・食料・水の補給を求めて、日本と条約を結び、開港させた。

例1の生徒の記述では、「欧米の東アジア進出の意図」「欧米の進出に対する中国と日本の対応」が諸資料から考察されており、「おおむね満足できる」状況と考えられる。例2の生徒の記述では、資料の個々の事実は読み取れているが、共通性や関係性についての考察が不十分である。生徒には、個々の事実の共通性や差異が生じた背景を考えさせ、関連性を意識させることにより、「おおむね満足できる」状況になる記述ができるようにさせたい。

(3) 歴史総合「B 近代化と私たち (3) 国民国家と明治維新 (列強の帝国主義政策とアジアの変容)」の計画例

ア 単元の目標

- ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。
- ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関わる諸事象について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 | 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関わる諸事象について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとしている。 |

ウ 単元の指導と評価の計画 (5時間)

※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価 (以下同様)

| ねらい、学習活動等         |   | 知 | 思 | 態  |
|-------------------|---|---|---|--|
| 第1次<br>(2時間<br>抜) | <p><b>主題 「帝国主義政策の影響」</b><br/> <b>小单元5全体に関わる問い 「列強の帝国主義政策は、日本やアジア諸国をどのように変えていったのだろうか。」</b></p> <p>・小单元5全体に関わる問いについて、中学校までの学習やこれまでの学習を踏まえて表現した解について吟味し、追究したい内容について見通しをもって学習取り組む</p> <p><b>【問い】「欧米列強は、なぜ帝国主義政策を進めたのか。」</b></p> <p>・列強における技術革新とアフリカ、太平洋の分割などの植民地獲得競争の関連について、諸資料から読み取り表現する。</p> <p><b>【問い】「日清戦争の影響により、アジアはどのように変容したのか。」</b></p> <p>・日清戦争への過程や日清戦争後の中国分割、日本と欧米列強との関わりの変化について理解している。</p> |   |   | <p>&lt;ICTの活用&gt;<br/>国民国家が成立した諸外国の帝国主義政策について、生徒がICT端末等を活用して情報収集する。</p> <p>&lt;「総探」との関連&gt;<br/>「課題の設定」「情報の収集」と関連を持たせる。</p>  |
|                   | <p><b>【問い】「日露戦争は、アジアの人々にどのように影響したのか。」</b></p> <p>・日露戦争に関する国内の意見、日露戦争後のアジア諸国の受け止めと変容について、諸資料から読み取り表現する。</p> <p><b>【問い】「日本のアジア進出は、韓国、中国にどう影響したのか。」</b></p> <p>・日本のアジア進出によるアジアへの影響と欧米との関係の変化について理解している。</p> <p><b>【まとめ】：小单元5全体に関わる問いについて、単元での学習を振り返る</b></p> <p>・学習を通して、「小单元5全体に関わる問い」に対する自分の考えがどのように変化したのかを振り返って考察し、表現する。</p>   | ● | ○ | <p>&lt;「知・技」の評価の工夫&gt;<br/>資料を読み取り、表現する学習活動のうち、「資料を読み取る技能」を評価場面として設定している。<br/>・日露戦争に関する国内の意見を読み取り、日露戦争を評価する。また、その評価が、授業を通して深まったり、変わったりするよう働きかけ、日露戦争に係る学びを自分事として捉えることができるようにする。</p> <p>&lt;「態」の評価の工夫&gt;<br/>単元シートを活用し、学習を通して自分の考えがどのように変容していったのかを見取ることができるようにする。</p> |
| 第2次<br>(3時間<br>抜) |   |   | ○ |  |

エ 学習指導案（3時間目／5時間中）

(ア) 本時の目標

日露戦争の勝利がアジア諸国の近代化の運動に刺激を与えたことについて、複数の資料から読み取り表現することができる。

(イ) 本時の展開

|     | 生徒の学習活動  | 指導上の留意点  |
|-----|--|--|
| 導入  | <p><b>【本時の問い】「日露戦争は、アジアの人々にどのように影響したのか。」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国内における、日露戦争に関する意見の主旨を、諸資料から読み取り表現する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主旨の要点を簡潔に表現させる。</li> </ul>  |
| 展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争がどのような経過で進むのか、知識を確認する。</li> <li>日露戦争の勝利が、アジアの人々に及ぼした意識の変容について、諸資料から読み取り表現する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>知識の確認は、解説が長くないよう留意する。</li> <li>資料の主旨を読み取り、それぞれの資料を抽象化させる。</li> </ul>      |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業を振り返り、日露戦争の評価について表現するとともに、授業を通して自己の考えの変化について整理する。</li> <li>ICTを活用して、考察したことをグループで共有する。グループでの共有内容を踏まえ、自分の考察を1枚ポートフォリオに記入する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思考をメタ認知できるようにする。</li> <li>共有することで、他者の視点を取り入れ、思考の幅が広がるようにする。</li> </ul> |

■評価の留意点  
・資料を適切に読み取れているか、という技能の観点で評価する。

ワークシートは前時に配付しておき、教科書を参考に、各自家庭で作業を終えるようにする。

■評価の留意点  
・諸資料から、課題の解決につながる様々な情報を適切に読み取れているかという「技能」を確認し評価する。

グループでの共有内容を、全体で共有できるように、時間に配慮する。  
全体共有の際は、ICTを活用して、各グループの表現した考察や意見を提示することで時間を効果的に使用できるようにする。

1枚ポートフォリオを見る場合は、ここをクリック

ワークシート全体を見る場合は、ここをクリック

○ あなたの日露戦争の捉え方や評価は変わったのだろうか。変わった理由（又は変わらなかった理由）は何だろうか。  
○ また、アジアに対する考え方等について、当時の日本人と今の自分に共通点や相違点はあるのだろうか。

|                                |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 戦争の評価に対する自分の考え<br>名前 ●●        | 戦争の評価に対する自分の考え<br>名前 ■■        | 戦争の評価に対する自分の考え<br>名前 ▲▲        |
| アジアに対する考え方等についての自分の考え<br>名前 ●● | アジアに対する考え方等についての自分の考え<br>名前 ■■ | アジアに対する考え方等についての自分の考え<br>名前 ▲▲ |

オ 評価資料

(ア) ワークシート

- ・読み取る資料の一部

私が初め国を出た時は、専ら軍器問題に没頭したが、日露戦役の詳細な状況と日本の外交、政治、教育、実業の現状を見聞し、自分が鎖国の中にあり、思想も偏狭なことを深く恥じ、私の同士も同様であるため、同士をこの桜花三島（日本）に移して、頭脳眼光を一洗一換できないのを恨んだ。わが国の少年が海外に出て、自由にその力を発揮できたなら、国を救うことができるかと考え、留学生を海外に送ることを国民に勧める文を著した。もしその効果が挙がって遊学が日に日に増え、国民の才能や知恵が高くなれば、ヴェトナム国が再び蘇生する日もある。  
(ファン・ボイ・チャウ「獄中記」より作成)

諸資料の主旨を読み取り、諸外国の人々が歴史的出来事をどう受け止め、諸外国の人々にどう影響したのかを端的に表現する。

アジアの一国である日本の勝利は、アジアの全ての国々に大きな影響を与えた。沢山のアジアの少年、少女、そして大人が同じ感激を経験した。ところが、その直後の成果は少数の侵略的帝国主義諸国のグループに、もう一国を付け加えたというに過ぎなかった。その苦い結果をまず最初になめたのは朝鮮だった。  
(ネルー「父が子に語る世界史」より作成)

諸資料を読み取る際には、諸資料を残した人々の立場や考え、資料を残した意図などを踏まえることが大切であることを指導する。

- ・読み取った資料の共通点と相違点の表現

(2) 諸外国の人々は日露戦争における日本の勝利をどのように受け止めていたのだろうか。受け止めの違いについて、諸資料から読み取ったことの共通点を整理して表現しよう。

諸資料から読み取った内容を、網羅的に表現するのではなく、共通点を整理して表現させることで、読み取った技能を見取るようにする。

#### (イ) 評価規準

この単元を通して理解させたいのは、列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基にした「列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容」である。本時では、日露戦争前の国内の開戦に対する意見を簡潔に表現するために、適切に読み取る技能を評価している。具体的には、日露戦争の勝利に刺激を受けたアジア諸国の状況について、複数の資料をから読み取ったことの共通点と相違点を、「類似と差異」の視点で見いだすことができているか、について評価する。課題の説明について、次のような評価基準を設定した。

|       | A   | B  | C  |
|-------|---|--|--|
| 知識・技能 | 諸資料から、日露戦争に関するアジア諸国の評価等を、適切に読み取り、抽象化することができる。 | 諸資料から、日露戦争に関するアジア諸国の評価等を、適切に読み取り、まとめることができる。 | 諸資料から、日露戦争に関するアジア諸国の評価等についての読み取りが不十分である。 |

#### (ウ) 具体的な評価例

##### 例1 「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

日本のロシアへの勝利は東洋人の西洋人に対する勝利であり、アジアの国々の独立運動につながったとする一方、その後の日本は帝国主義グループに加わり、他のアジアの国に進出することになったことを嘆いている。

##### 例2 「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例

ロシアが日本に負けたことで、アジアの国家でもヨーロッパ諸国と戦えるという自信を芽生えさせたことが、アジアの人々に勇気を与えた。

例1の生徒の記述では、諸資料から、アジア諸国による日露戦争の受け止めの共通点と相違点に着目し説明していることから、諸資料を適切に読み取っていると評価できるため、「おおむね満足できる」状況と考えられる。例2の生徒の記述では、アジア諸国が日本の勝利に刺激されたことは読み取っているが、日本の勝利を批判的に捉えている資料については読み取ることができていない。生徒へは、「史料は、誰が、どのような意図で残したのかを考えることが大切であり、人の立場によって、歴史には様々な評価が存在すること」を意識させることにより、「おおむね満足できる」状況になる記述ができるようにさせたい。

